

浜松医科大学臨床検査専門研修プログラム (浜松医科大学医学部附属病院)

1 はじめに

臨床検査結果は客観的なエビデンスの60～70%を占め、診療ガイドラインの3分の1を占め、まさに診療に不可欠なものです。臨床検査医学の根本は、検査を、そして検査データを大切に、得られた情報からノイズを排除して、最大限に解釈して診断することだと考えます。それにトライしてみませんか。



プログラム統括責任者 浜松医科大学医学部附属病院検査部長 前川 真人

2 目的

臨床検査はEvidence Based Medicineにおける客観的な指標として、診療に欠かせないものです。臨床検査の全般において、その品質の向上と維持に努め、適切かつ信頼性の高いサービスを通して良質で安全な患者診療に貢献する専門医が臨床検査専門医です。そのような専門医を育成すべく、浜松医科大学臨床検査専門研修プログラムにおいては、指導医がみなさんの教育・指導にあたります。本研修プログラムでの研修後に、臨床検査の基礎医学的背景、方法論、臨床的意義を十分に理解し、それを元に医師をはじめ他のメディカルスタッフと協力して適正な医療の実践に貢献することを目標とします。

3 研修病院群

(1) 専門研修基幹施設

浜松医科大学医学部附属病院

(2) 専門研修連携施設

聖隷浜松病院

4 専攻医受入数

2名

5 研修期間

3年

6 研修計画(例)

本研修プログラムでは、以下の基本7科目の研修を行います。基幹施設である浜松医科大学医学部附属病院で多くの研修を行います。連携施設(聖隷浜松病院)での研修を行うことにより、深みのある研修を行います。原則として以下のように基本検査科目ごとに独立し集中して研修し、ローテーションします。その順序は原則自由です。効率よく、同時並行で研修することもありますし、興味ある領域を長く研修することもできます。

- ① 臨床検査医学総論：2～4ヶ月
- ② 一般臨床検査学・臨床化学：4～6ヶ月
- ③ 臨床血液学：4～7ヶ月
- ④ 臨床微生物学：4～7ヶ月
- ⑤ 臨床免疫学・輸血学：2～4ヶ月
- ⑥ 遺伝子関連検査学：1～2ヶ月
- ⑦ 臨床生理学：2～6ヶ月

各年の習熟目標としては、検査報告書の作成を例にすると、1年目は指導医の点検を必要とするレベルから、2、3年目には指導医の点検を必要としないレベルを目指します。後述するRCPCは全期間を通して行います。また研究などの学術的活動も1年目終了後に随時行うことができます。

各基本科目の施設内での研修は以下のように行います。

- ① 病院検査部門で臨床検査技師の助力のもとに各種検査を実施(経験するレベル)、見学する。
- ② 病院検査部門で指導医の指導のもとで各種検査の結果を判定し、報告書発行が業務となっている場合は報告書を作成する。
- ③ 病院検査部門で指導医の指導のもとで各種コンサルテーションに応え、記録を作成する。
- ④ 指導医による講義により検査に関連する知識を得る。
- ⑤ 検査部門または臨床科のカンファレンスに参加して学習する。
- ⑥ 指導医と上級臨床検査技師の監督のもとに臨床検査技師実習学生の教育を実践することにより学習する。
- ⑦ 臨床検査法提要(金原出版)、標準臨床検査医学(医学書院)、異常値の出るメカニズム(医学書院)などの教材や施設内教材を用い、自己学習を行う。

また、施設外では、各種学会が主催する講習会やセミナー、当院で開催するセミナーに参加して、医療安全、感染対策、医療倫理に関する基礎知識を得るとともに、さらに当院だけでなく市中病院でも地域連携的に横断的な知識や情報、技能を育てます。

さらに、リサーチマインドを涵養するため、2年目から自身の研究を始めます。

研修の修了が認定されたら専門医認定試験の受験資格が与えられます。この試験に合格すると、臨床検査専門医となります。臨床検査専門医には、さらに経験を積み大規模中規模施設の臨床検査部門を管理・運営すること、指導医となって現在は数少ない臨床検査専門医を育成すること、教育研究機関において臨床検査医学の教育・研究を担うことが期待されます。

このプログラム制の他に、臨床検査専門医を目指す道として、他領域で経験を積んだ後に当該専門領域のキャリアを踏まえて、より検査診断に特化した力量と資質の習得を目指すカリキュラム制研修システムも設けています。カリキュラム制とは、研修の形態の詳細は問わず、到達目標を達成すれば認定試験受験資格を与えるものです。

7 問い合わせ先

電話：053-435-2721、e-mail：mmaekawa@hama-med.ac.jp